

今回は、「歴史観光・夕雲の城ツアー」構想の報告です。

◇ 日本考古学協会総会高校生ポスターセッションで、優秀賞を受賞しました！

ポスター公開期間： 5月23日（日）10:00 ～ 6月4日（金）17:00

場 所： 日本考古学協会公式ウェブサイト

参加者： 田中莉子 藤村彩須果 小原和也 河路康太 渡邊貫太 石原伶緒

テーマ： 織田信長の東美濃攻略戦とその関連史跡の活用について

～地域と高等学校の連携による実践報告～

第87回日本考古学協会総会において、2021年高校生ポスターセッションが実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研究発表要旨及びポスターデータによる審査となりました。結果、本校地域研究部の作品が優秀賞に選ばれました。本年度は対面による口頭発表が行われなかったためか、優秀賞3校の発表のみで最優秀賞の選定はありませんでした。本校としては、一昨年最優秀賞受賞に続く上位入賞となりました。

◇ 専門家からのコメント

東北学院大学教授 辻秀人氏（日本考古学協会会長）

地域に残る織田信長の東美濃攻略という歴史動向を示す遺跡群を実際に歩いて現状を確認した上で、高校生の視点で、観光、郷土学習を提案し、イベントを地域の自治体と共同して開催するという実践は大変素晴らしいと思いました。観光では、見学者が一方向的な受ける側ではなく、実際に現地を訪れ、滞在し、体験する提案がありました。これからの歴史を生かした観光の一つの在り方を示していると思いました。郷土学習でも座学ではなく、実践が提案されました。ドローンやスマホを使う提案はこれからの一つの方向になると思います。課題とされた、地域や他校と連携した活動は是非頑張ってくださいと思います。成果を大いに期待しています。

関西外国語大学教授 佐古和枝氏

あくまで個人的な感想ですが、まず、市町村境をこえて、地域に存在する信長の東美濃攻略の関連遺跡を一体のものとしてとらえ、活用していくべきという視点がいいですね。行政主導・地域住民主導の遺跡活用では、どうしても「うちの遺跡」だけになり、なかなか市町界を越えることは難しいものです。高校生だからこそ、良いと思うことをストレートに提案し、複数の自治体をつなぎ、官と民をつなぎ、高齢者と若者をつなぎ、さまざまなマンパワーを結集させてくれたことは、素晴らしいと思います。高齢者への配慮もあり、スマホなど最新機器を駆使して、新しい感動の伝え方を模索してくれたことも、良かったです。東美濃において関高モデルを作ってもらえれば、全国各地の文化財活用にも参考にされるとと思います。



加治田城下町を見学中のメンバー  
造酒屋のご夫婦は関高同窓生